

ランチョンセミナー 3-7

日時

2023年5月21日(日)
12:00~13:00

会場

第6会場 10F 1004+1005
大阪国際会議場

最新の術中蛍光技術を用いた脳神経外科治療
- さらなる安全安心な治療を目指した新しい取り組み -

座長

森田 明夫 先生

日本医科大学名誉教授

寺岡記念病院

高齢者健康医学センター長



演題① 演者

近藤 聡英 先生 順天堂大学医学部 脳神経外科学講座 主任教授

■ 脳腫瘍組織のより精密な摘出を目指して ~最新の術中蛍光技術の使用経験から~

脳実質腫瘍の手術においては、正常組織と腫瘍組織との境界が顕微鏡下においても難しいことが少なくない。実際、多くの症例において腫瘍細胞は正常組織に浸潤しており、その境界は不明瞭である。アミレブリン酸による腫瘍細胞の術中蛍光発光はその判断の補助として用いられてきた。そこで、最新の術中蛍光発光技術と画像的技術革新を紹介し、それにより得られる情報から、現在の脳実質腫瘍摘出手術現場における課題と応用を検討する。



演題② 演者

水谷 徹 先生 昭和大学医学部 脳神経外科学講座 主任教授

■ 無血をめざす脳動脈瘤手術 ~さまざまなアプローチとカラー-ICGの有用性~

脳動脈瘤の手術において安全確実にクリッピングを遂行するためには、無血の術野下に、両手の同時操作でクリップをコントロールし、最後までブレードの先端を見届け、穿通枝を残す至適な位置にクリップをかける (Blading Technique) ことが理想である。穿通枝が確実に温存されているかどうかは、血管だけではなく、周囲の構造を同時にチェックできるカラー-ICGが有用であり、活用している。前方循環、後方循環における各種動脈瘤手術アプローチとカラー-ICGの使用場面を紹介したい。

